

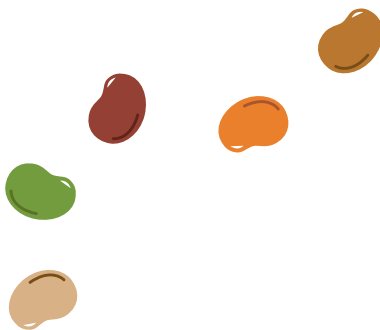
フジッコの森



第56期 中間報告書

平成27年4月1日から平成27年9月30日まで

Fujicco concept



代表取締役社長

福井 ふー

Top Message

■ ごあいさつ

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

■ 当第2四半期の事業環境

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、中国の景気減速や人手不足による労働コスト上昇等の懸念材料が残るものの、政府の経済政策や日銀の金融政策を背景に、緩やかな回復基調で推移しました。

食品業界におきましては、円安による輸入原材料価格の高止まりにより収益が圧迫され、一部で加工食品の価格改定が相次ぐ等、依然として厳しい経営環境が続いております。

■ 当第2四半期の取り組み

このような環境の中、当グループにおきましては、「カスピ海ヨーグルト」や「おまめさん 豆小鉢」、水煮シリーズなど成長品群の拡販に注力するとともに、全社的なコストダウン活動に取り組みました。

売上高は、昆布製品が不振となりましたが、惣菜製品、豆製品、デザート製品が好調に推移し、ヨーグルト製品が大きく伸ばしたことから、285億93百万円（前年同四半期比5.9%増）となりました。

利益面では、売上高の増加に加え、生産性の向上に取り組んだことから営業利益は23億83百万円（前年同四半

期比42.2%増）、経常利益は25億82百万円（前年同四半期比41.3%増）となり、また投資有価証券の売却益により親会社株主に帰属する四半期純利益は19億96百万円（前年同四半期比64.5%増）と大幅に伸ばしました。

■ 今期の見通しとビジョン

今後の国内景気につきましては、個人消費の回復に一部で弱さが見られるものの、緩やかな回復傾向が続くものと予想されます。

当グループにおきましては、中期経営計画最終年度である今期の売上及び利益目標の達成に注力してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成27年12月

「カスピ海ヨーグルト」生産一時休止のお詫び

去る10月、「カスピ海ヨーグルト」シリーズ2品において、その特徴である粘性が不足する事象が発生し、残念ながら、原因究明と解決のために、その生産を11月2日より一時休止しております。ご愛顧いただいたお客様には、多大なご迷惑をお掛けしましたことを、謹んでお詫び申し上げます。一日でも早い再開を目指して最大限努力しておりますので、何卒ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

おいしさと健康と 安心を食卓に。

健康創造企業

私たちは
取り組んでいます

いつも
お客様とともに

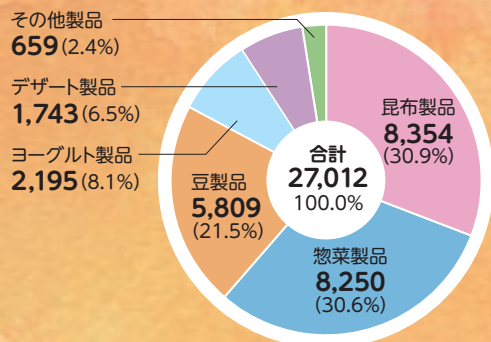
現代人の食と
栄養のために

おいしさと
安全のために



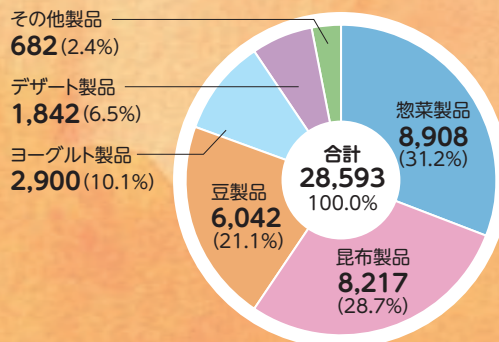
創業	従業員数 ^{※2}	煮豆シェア ^{※3}	昆布佃煮シェア ^{※3}
1960年	2,223名	40.2%	46.8%
お客様からの お問い合わせ・ご意見の件数	株主数	売上高	営業利益
4,946件	4,784名	285億円	23.8億円

製品分類別売上高 [百万円]



第55期

(平成27年3月期第2四半期累計実績)



第56期

(平成28年3月期第2四半期累計実績)

※1 上記数値は平成28年3月期第2四半期のものです。

※2 従業員数は就業人員数であり、臨時従業員数を含みます。なお、臨時従業員には、パートタイマーを含み、派遣社員を除いています。

※3 インテージ「SCIレポート」による。

弊社は1990年の株式上場以来、常に重要なステークホルダーとして株主の皆様を位置づけ、適切な情報開示と業績の向上、安定的な配当性向の維持に努めてまいりました。



今回、より株主の皆様に近い関係を強化し、

弊社のファンになっていただくという動きをスタートさせました。

単元株式数ならびに株主優待制度の変更

弊社は、個人投資家の株式市場への参加を促進し、株式の流動性を高める有用な施策のひとつとして、平成27年9月1日より、単元株式数を1,000株から100株に変更いたしました。また、毎年3月31日現在、単元株式を保有される株主様に自社製品の詰め合せを贈呈させていただき株主優待制度を実施しておりますが、単元株式数変更をふまえて、より多くの株主様に弊社株式を中長期的に保有していただき、より一層のご支援をいただくべく株主優待制度を変更いたします。

変更の内容

所有株式数	優待内容
100株以上1,000株未満の株主様	1,000円相当の 自社製品詰め合せ 
1,000株以上の株主様	3,000円相当の 自社製品詰め合せ 

※優待品の製品組み合わせにつきましては、毎回、変更することがありますのでご了承下さい。

変更予定日

平成28年3月31日現在の株主名簿に記載または記録された株主様への株主優待より変更いたします。
(平成28年6月中旬発送予定)

増配のお知らせ

上記の業績をふまえ、以下の通り増配を予定しております。

	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年3月期	—	16.00	—	16.00	32.00
28年3月期	—	17.00			
28年3月(予定)			—	17.00	34.00

環境の変化は激しく、人口・世帯の動向やニーズの変化に照準を合せた事業展開、マーケティングが求められています。弊社のコア事業である「豆製品」や「昆布製品」においては、特に業界トップ企業として需要の細分化をベースにした、市場全体を活性化する新商品の上市を心掛けています。また、利便性ニーズに沿った商品ラインナップとチャネルの拡大を行っています。このような中で、咀嚼困難な方に向けたやわらか食「ソフトデリ」が、その品質を専門家により評価されています。

社会のトレンドを捉えた商品開発、プロモーション、チャネル拡大を行っています

【世帯人数減(小容量化)に対応し伸長 「おまめさん 豆小鉢」】

世帯人数は2015年には平均2.3人という数字が予測され、単身世帯の構成比も33%、2人世帯まで含めると63%が少人数世帯になります。加工食品も小容量化が進んでおり、このトレンドを見越して2006年に「小容量×2個パック」の新しい煮豆を発売。昨年、新サブブランド「豆小鉢」を付与し、TVCMを投下、大いに成果を上げ、第56期上期においても大きく売上増に貢献しました。本シリーズは従来の煮豆のコアユーザーとは異なる20~30代の新規層を獲得しており、今後に期待がもてる現代型商品です。



【「おかず畑 和惣菜」をリニューアル 新TVCM放映！】

この9月より「おかず畑 和惣菜」シリーズをだしを切り口にリニューアル、同時に新TVCMを投下しました。「昆布屋のしっかりだし」をキャッチフレーズに、だしでよりおいしくなったことを新CMの中で訴求、商品にも表示しています。新CM「料理人とふじっ子ちゃん」篇では、京都で四百年の歴史を誇る料亭『京料理道楽』の14代目店主「飯田知史」氏にご登場いただき、料亭の味も「おかず畑」も甲乙つけがたいという内容になっています。



【統合型通販サイト 「フジッコネットショップ」オープン】

通信販売は他のチャネルに比べて、現状の女性の社会進出や高齢化のトレンドを反映して伸長を続けています。弊社もここ十年来通販事業に取り組んできましたが、今期4月より従来からの健康食品に加え、量販店向け商品の通販版や、介護食、佃煮ギフトなどを、一つの入口からはいって購入できる「統合型通販」をホームページ上でスタートさせました。お客様の利便性は高まり、成果が期待できます。弊社では今後も、お客様のトレンドに合せたチャネル開発を進めていきます。



フジッコの介護食「ソフトデリ やさい豆」が農林水産大臣賞を受賞しました

弊社では咀嚼困難な方のために、煮豆や漬物、佃煮、水煮を驚くほどのやわらかさに仕上げた「ソフトデリ」を販売しています。その「ソフトデリ」で本年「介護食(スマイルケア食)コンクール」において、「やさい豆」が農林水産大臣賞、「赤しば漬」が審

査委員特別賞を受賞しました。今後もより一層人にやさしい食づくりを目指し、健康長寿社会に貢献したいと考えております。



弊社の経営戦略の重要事項として、コストダウンと業務革新があり、これを実現する運動として「FCR運動」があります。今期で10年目を迎え、大きな成果を上げつつあります。また、大きな環境変化に伴うリスクは増大してきており、それに対する対応が求められています。そして、海外市場の開拓は経営課題であり、今年参加した「食」をテーマとする「ミラノ万博」は、弊社のPRに絶好の機会でした。

FCR運動10年

弊社は、2005年4月より自発的な全社的価値創造運動として、FCR運動を展開してきました。このFCR運動は、コストリダクション活動のFCR-1 (Fujicco Cost Reduction) と業務革新運動のFCR-2 (Fujicco Creative Revolution) で構成

されます。

選択と集中による経営資源の再配分による継続的成長とともに、高収益体質の実現に向け、FCR運動の展開により、あくなくコスト削減を力強く進めてまいります。

また、業務革新活動では、自部門では解

決できない部門間をまたぐ課題解決を図るべく、組織横断型の創造的革新活動に注力し、仕事のプロセスそのものを変えるなど、将来的に大きな価値創造の実現を目指しております。

FCR運動の概念図



これらを踏まえ、2015年4月にリスク対策プロジェクトを発足させました。

リスク対策プロジェクト発足

持続的な成長と中長期的企業価値の最大化に向け、経営資源の再配分による新たな事業の成長戦略の構築を進めるにあたって、企業を取り巻くリスクも多様化し、自己責任による説明責任の増大により、リスクがもたらす損害を最小限に抑

えることが不可欠となってきました。

リスクマネジメントは、企業のガバナンスの一部を構成する全社的なしくみで、事業に伴うリスクを明確化し、リスクを低減する対策を整備、継続的にモニタリングすることにより、企業価値を高めるものです。

イタリア・ミラノ国際博覧会に参加！丹波黒黒豆を世界にアピール

本年7月に開催された「ミラノ国際博覧会 兵庫県出展事業」に、兵庫県丹波黒振興協議会の会員企業として参加、丹波黒黒豆のプロモーションを実施しました。初めて見る丹波黒に来場者の方は興味津々。試食の黒豆ジェラートや煮豆も大好評でした。

出展3日間を盛況に終え、丹波黒をはじめ日本の伝統食の海外における受容性を直接確認でき、今後の海外展開に手応えを感じた貴重な機会となりました。



「和食；日本人の伝統的な食文化」がユネスコ無形文化遺産に登録され、栄養バランスに優れた「和食」はいまや世界から羨望される日本の文化です。弊社ではこの素晴らしい食文化を子ども達に継承すべく、食育活動に取り組んでいます。また、さらなる安心安全、お客様満足度向上のために「品質保証会議」を発足しました。



和食文化を次世代に伝えるためのフジッコ流食育活動

【 ゲームを通して食を学ぶ 小学生豆つかみゲーム大会 】

ゲームを通してお箸とお椀の正しい持ち方を学ぶ「豆つかみゲーム大会」を開催しています。豆つかみゲームはオリジナルの食育ツール「まめっくん」を使い、1分間でいくつ豆をつかめるかを競うゲームです。



本年は8つの小学校による初めての対抗戦ということもあり、場内は各チームの応援団によるエールで大盛り上がりでした。

【 これからの和食のあり方を考える 食育DAY講演会 】

弊社では、毎年食育月間の6月に「食育DAY」と題したイベントを行っています。第6回の本年は「和食給食応援団」事務局長の西居豊氏の学校給食をテーマにした基調講演をはじめ、医学博士・管理栄養士の本多京子氏、浜学園経営企画室長の藪孝昭氏を招き、日本の食卓における和食のいまを討論していただきました。



●西居 豊氏



【 親子で食育学習 丹波篠山黒豆作付け体験 】

黒豆の作付けから収穫、調理までを学ぶフジッコ食育プログラムを黒豆の生産地として名高い丹波篠山で開催しました。第7回を迎える本年、22組44名の親子が参加。黒豆農家で小多田生産組合相談役の小島琢彌氏を講師に迎え、黒豆の作付けや野菜の収穫などを体験し、土に触れ自然の恵みを実感する一日となりました。



●小島 琢彌氏▶



お客様満足度向上のために『品質保証会議』を新設

お客様からのお問い合わせ・ご要望は、この第2四半期で4,946件、毎日相談員が電話を中心に丁寧に対応しています。その中でも特に、度重なる内容、重要な内容について、社長以下経営幹部が出席して、検討改善する場として、この4月より『品質保

証会議』を新設しました。さらに本会議は、全社的な品質保証に関する方針決定の場としても機能し、より一層のお客様満足度向上を目指します。



ふじこ
あんしん
システム

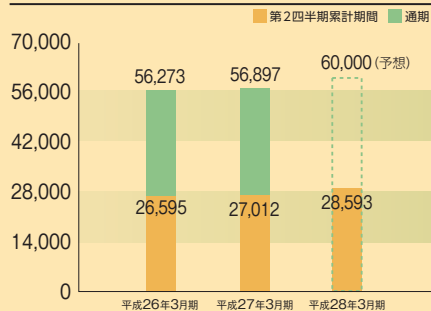
親切表示とコミュニケーション

健康・栄養・食生活のサポート

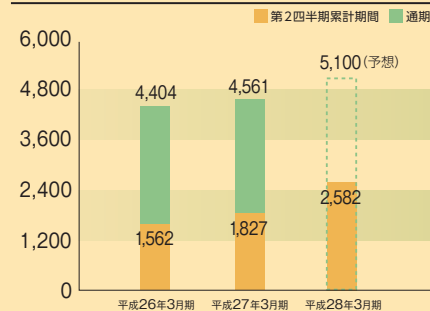
心こめた作り
Fujicco
Spirit

お客様満足度向上のための取り組み

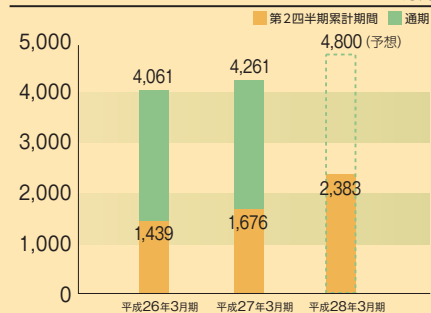
売上高 百万円



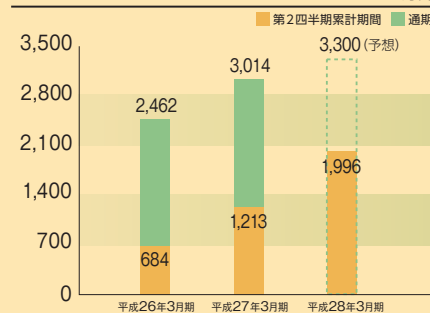
経常利益 百万円



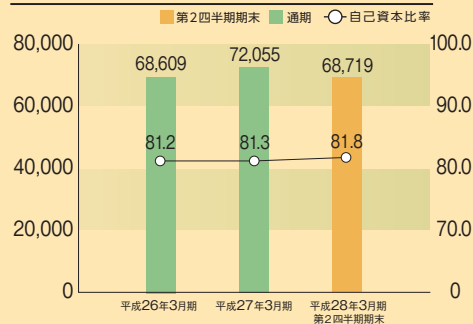
営業利益 百万円



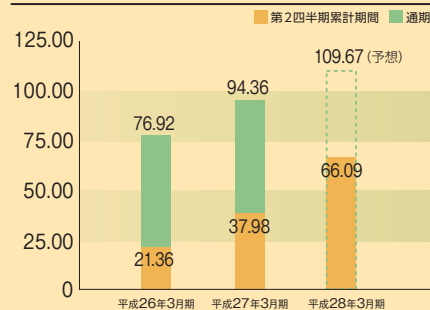
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 百万円



総資産・自己資本比率 百万円・%



1株当たり四半期(当期)純利益 円



四半期連結貸借対照表 (単位:百万円)

科 目	前第2四半期 (平成26年 9月30日現在)	当第2四半期 (平成27年 9月30日現在)	前 期 (平成27年 3月31日現在)
資産の部			
流動資産	30,934	28,918	31,744
固定資産	39,070	39,801	40,311
有形固定資産	31,600	32,452	32,140
無形固定資産	418	357	392
投資その他の資産	7,052	6,991	7,777
資産合計	70,005	68,719	72,055
負債の部			
流動負債	10,740	10,576	11,059
固定負債	2,438	1,961	2,412
負債合計	13,178	12,538	13,471
純資産の部			
株主資本	55,745	54,895	57,027
資本金	6,566	6,566	6,566
資本剰余金	7,302	7,302	7,302
利益剰余金	45,172	47,947	46,462
自己株式	△3,296	△6,921	△3,304
その他の包括利益累計額	1,080	1,286	1,556
その他有価証券評価差額金	1,168	1,403	1,681
退職給付に係る調整累計額	△87	△116	△124
純資産合計	56,826	56,181	58,584
負債純資産合計	70,005	68,719	72,055

四半期連結損益計算書 (単位:百万円)

科 目	前第2四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	前 期 (自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)
売上高	27,012	28,593	56,897
売上原価	16,298	16,676	34,263
売上総利益	10,713	11,917	22,633
販売費及び一般管理費	9,037	9,533	18,372
営業利益	1,676	2,383	4,261
営業外収益	180	222	359
営業外費用	29	24	59
経常利益	1,827	2,582	4,561
特別利益	288	365	328
特別損失	196	4	206
税金等調整前四半期(当期)純利益	1,918	2,944	4,683
法人税、住民税及び事業税	928	1,089	1,681
法人税等調整額	△223	△141	△12
四半期(当期)純利益	1,213	1,996	3,014
非支配株主に帰属する四半期(当期)純利益	—	—	—
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益	1,213	1,996	3,014

四半期連結キャッシュ・フロー計算書 (単位:百万円)

科 目	前第2四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	前 期 (自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,426	1,441	7,238
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,346	△277	△3,514
財務活動によるキャッシュ・フロー	△861	△4,423	△2,266
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	—	△0
現金及び現金同等物の増減額	217	△3,259	1,457
現金及び現金同等物の期首残高	14,774	16,231	14,774
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高	14,992	12,972	16,231

会社情報

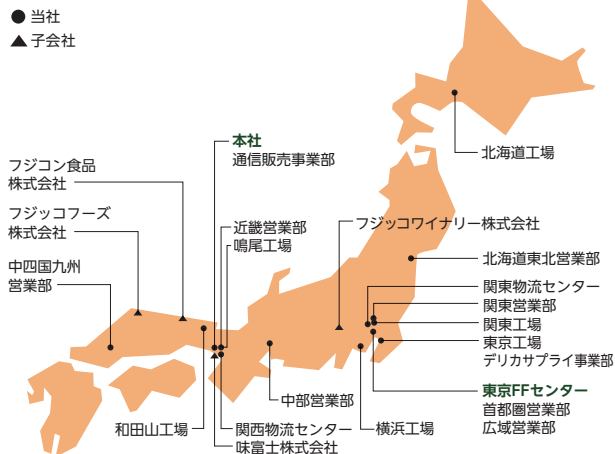
■ 会社の概要 (平成27年9月30日現在)

社名	フジッコ株式会社
本社所在地	神戸市中央区港島中町6丁目13番地4
事業内容	惣菜製品、昆布製品、豆製品、ヨーグルト製品 及びデザート製品等を主体とした食品加工業
創業	昭和35年11月7日
資本金	65億66百万円
従業員	2,223名
工場	兵庫2、埼玉1、千葉1、神奈川1、北海道1
物流センター	兵庫1、埼玉1
営業所	全国21拠点
連結子会社	●フジコン食品株式会社 ●フジッコワイナリー株式会社 ●味富士株式会社 ●フジッコフーズ株式会社

■ 役員 (平成27年9月30日現在)

代表取締役社長	福井 正一
専務取締役	奥平 武則
常務取締役	宗形 豊喜
常務取締役	籠谷 一徳
取締役	山田 勝重
取締役	石田 吉隆
取締役	河内 茂
取締役	山崎 章史
取締役	北島 幹也
取締役	堀 郁郎
取締役	桑名 好恵
非常勤取締役	萩原 郁夫
非常勤取締役	石郷岡 隆
社外取締役	家森 幸男
社外取締役	渡邊 正太郎
常勤監査役	池田 善弘
社外監査役	尾崎 弘之
社外監査役	石田 昭

■ サービスネットワーク (平成27年9月30日現在)



本社	〒650-8558	神戸市中央区港島中町 6-13-4
東京FFセンター	〒112-0013	東京都文京区音羽 1-26-16
北海道東北営業部	〒983-0043	仙台市宮城野区萩野町 2-3-1 オフィスマトビルⅢ 1階
関東営業部	〒344-0041	埼玉県春日部市増富 110
首都圏営業部	〒112-0013	東京都文京区音羽 1-26-16
広域営業部	〒112-0013	東京都文京区音羽 1-26-16
中部営業部	〒465-0055	名古屋市中東区勢子坊 1-301
近畿営業部	〒663-8233	兵庫県西宮市津門川町 3-6
中四国九州営業部	〒733-0812	広島市西区己斐本町 3-13-26
デリカサプライ事業部	〒273-0014	千葉県船橋市高瀬町 5
通信販売事業部	〒650-8558	神戸市中央区港島中町 6-13-4
関東物流センター	〒350-2218	埼玉県鶴ヶ島市柳戸町8-21
関西物流センター	〒658-0033	神戸市東灘区向洋町西 6-13-1
北海道工場	〒066-0077	北海道千歳市上長町 1-8
関東工場	〒349-1212	埼玉県加須市麦倉 1501
東京工場	〒273-0014	千葉県船橋市高瀬町 5
横浜工場	〒226-0012	横浜市緑区上山 1-8-2
鳴尾工場	〒663-8142	兵庫県西宮市鳴尾浜 1-22-5
和田山工場	〒669-5212	兵庫県朝来市和田山町柳原 68
フジコン食品株式会社	〒669-6732	兵庫県美方郡新温泉町福富字定利 178
フジッコワイナリー株式会社	〒409-1313	山梨県甲州市勝沼町下岩崎 2770-1
味富士株式会社	〒650-0046	神戸市中央区港島中町 6-13-4
フジッコフーズ株式会社	〒684-0046	鳥取県境港市竹内団地 271

■株式の状況 (平成27年9月30日現在)

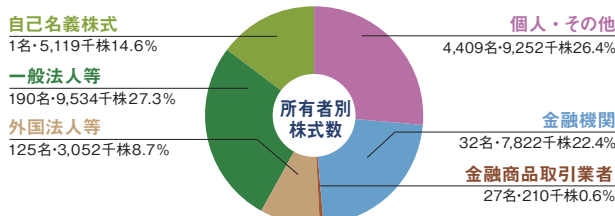
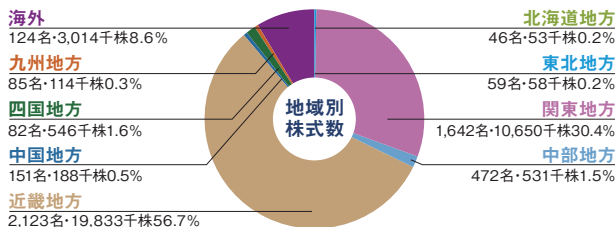
発行可能株式総数	108,000,000株
発行済株式の総数	34,991,521株
株主数	4,784名

■大株主の状況 (平成27年9月30日現在)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
有限会社ミニマル興産	6,194	20.74
福井正一	1,010	3.38
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	970	3.25
株式会社三菱東京UFJ銀行	895	3.00
住友生命保険相互会社	854	2.86
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	754	2.53
田中久子	616	2.06
日本生命保険相互会社	550	1.84
フジッコ従業員持株会	499	1.67
株式会社三井住友銀行	494	1.66

- (注) 1. 大株主上位10名を記載しております。
 2. 当社は、自己株式5,119,807株を保有しておりますが、上記には含めておりません。
 3. 持株比率は、自己株式5,119,807株を控除して計算しております。

■株式分布状況 (平成27年9月30日現在)



- (注) 「金融商品取引業者」とは、「証券業」を含む金融商品取引業者を指し、従前の「証券会社」と同様の範囲となります。

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日
期末配当金 受領株主確定日	3月31日
中間配当金 受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL 0120-094-7777(通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所市場第一部
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.fujicco.co.jp (ただし、電子公告によることのできない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときには、日本経済新聞に公告いたします。)

ご注意

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなります。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記の連絡先にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行本支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

配当金について

当社定款の規定に基づき、平成27年9月30日の最終の株主名簿に記載または記録された株主または登録株式質権者に対し、次のとおり中間配当金を支払います。

- | | |
|-----------|------------|
| 1 中間配当金 | 1株につき金17円 |
| 2 効力を生じる日 | 平成27年12月4日 |



この印刷は環境に優しい
植物油インキを使用しています。



食よく、バランスよく。

®

「新・日本型食生活」をめざして



フジッコ株式会社

神戸市中央区港島中町6丁目13番地4